

2021年8月1日

各位

インベスコ・アセット・マネジメント株式会社

## お客様本位の業務運営に関する方針への取り組みについて

インベスコ・アセット・マネジメント（以下「当社」）では、「お客様本位の業務運営に関する方針」（以下「本方針」）に基づき、継続的にお客様本位の業務運営に向けた様々な取り組みを推進しております。本書では、主な取り組みをご報告させていただきます。

※KPIの実績は2021年1月から同年6月までを対象

### 方針1：

資産運用のプロフェッショナルとして、Code of Conduct\*に準拠し、グローバル・レベルの高い職業倫理の醸成に努めるとともに、お客様の最善の利益を追求するよう努めてまいります。

また、顧客との取引に際し、顧客本位の良質なサービスを提供し、顧客の最善の利益を図ることにより、自らの安定した顧客基盤と収益の確保につなげていくことを目指してまいります。

\*インベスコ・グループが策定する行動規範です。

#### <取り組み>

当社では、役職員が主体的に、資産運用業者としての社会的責任とその役割の重要性を認識し、積極的に倫理観を向上させることを奨励しております。そのため、マネジメントから職員に対して常に法令遵守、お客様本位の業務運営の重要性を周知するとともに、全役職員に対して定期的なコンプライアンス研修を実施するなど、日頃から役職員の職業倫理の向上に努めております。

また、社内に相互牽制機能が働く組織体制を構築し、資産運用業者として疑義が生じる行為等について適切な判断ができるようにしております。

ファンド設定時においては、顧客の利益及びビジネス上の観点から適切な商品設計となっているかを確認しております。

#### <KPI>

コンプライアンス・レター：コンプライアンス・マインドを醸成し、各種制度を周知することを目的に、全社員宛にemailでコンプライアンスに関する事項を定期的に配布。対象期間中は9回配布いたしました。

定期コンプライアンス研修：全職員対象の研修を実施。職業倫理の重要性を再認識するのに役立てました。

## **方針 2 :**

利益相反管理に関する規程の下、業務の遂行において、お客様との利益相反の可能性について把握につとめ、適切な対応を行います。

### **<取り組み>**

当社では、利益相反のおそれのある行為、取引を適切に管理し、お客様及び当社が運用する運用資産を守るため、様々なモニタリング活動（ファンド間の取引、役職員の有価証券取引等）を行い、その結果を利益相反管理委員会、リスク管理委員会に報告しております。利益相反のおそれのある状況を特定した場合、利益相反のおそれのある取引についてお客様への開示を行うとともに、取引自体を中止する等の適切な判断ができる管理体制を敷いております。

また、利益相反管理委員会において、販売会社に対して不適切な利益の提供がないかを確認しております。

### **<KPI>**

対象期間中、利益相反管理委員会を2回開催。利益相反取引が無いことを確認いたしました。

## **方針 3 :**

私たちが提供する金融商品・サービスについて、お客様にご負担いただく手数料や費用がどのようなサービスの対価であるかを、関連するその他の重要事項とともに分かりやすく提供いたします。

### **<取り組み>**

当社では、手数料や費用はもとより、お客様にお届けするその他の重要事項を分かりやすく伝えることは、当社の商品をご理解いただく上で大切なことと考えております。交付運用報告書、交付目論見書、月報及び販売用資料等の資料では、より視覚的な「分かりやすさ」の向上を図るとともに、お客様にご負担いただく手数料や費用、投資リスクなどの記載内容においても、平易で明確な表現を用いることで、「分かりやすさ」の向上を目指しております。

## **方針 4 :**

お客様のニーズに合う多様な商品を開発するとともに、お客様にご満足いただけるよう、それぞれの商品の情報提供を、投資家の皆様の取引経験や金融知識を考慮の上、明確、平易であって、誤解を招くことのない誠実な内容で行います。

### **<取り組み>**

当社の商品開発の過程におきましては、日本法人での厳格な承認プロセスに加え、アジア太平洋地域ならびにグローバルでの厳格な承認プロセスが存在します。それぞれのプロセスは委員会形式を

採用しており、様々な部門の代表から構成されております。各委員会においては、運用戦略やストラクチャーの妥当性に加え、リスク管理手法、顧客ニーズおよび顧客適合性、ならびに費用水準の妥当性などを総合的に検討、議論した上で、商品を世に送り出すか否かの決定が行われます。当社においては、常に顧客本位の商品が提供されるような仕組みを整えて、商品の開発を行っております。

商品の重要な情報に関しましては、投資家の皆様に対して、ファンドの実績リターン、投資リスクならびに手続・手数料等を、目論見書などを通じて提供しております。資料作成の際には、明確かつ平易であり、誤解を招くことのない誠実な内容の情報提供を心掛けております。また交付目論見書の作成においては、手数料に関する情報を赤字にするなど、より重要な情報について強調し、投資家の皆様に注意を喚起するような配慮をしております。

現在、重要情報シートの内容についての検討を進めており、当社では、販売対象として想定する顧客属性を示すことで、販売会社が当該ファンドを投資家の皆様に販売・推奨する際の参考にしていただけるものと考えております。

商品の情報提供については、月報や運用報告書などの定期的な資料に加え、商品の特徴をわかりやすく説明するための販売用資料や、市場の大幅変動時の臨時レポートを作成するなど、細やかな対応を行っております。

資料作成においては、投資経験が少ない投資家であってもご理解いただけるような表現で販売用資料等を作成するよう努めること、ファンドの特徴を説明するうえで一般的に認知度が低い専門用語を表記せざるを得ない場合は注記や注釈によりその専門用語を解説すること、重要な事項は太字の使用や文字色の変更などにより注意喚起を行うことなどを心掛けております。

また、投資家の皆様が資産運用に関して、より深く理解していただけるよう、当社の商品やサービスに加えて、資産運用に関する広範な情報提供を行っております。コロナ禍でデジタルの活用が進展する中、投資家の皆様がオンラインで効率的な情報収集を行っていただけるよう、当社ホームページや各種公式ソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）アカウントを活用した情報発信に努めました。

<KPI>

マーケットや投資信託に関する特別レポートの掲載本数：33本

#### **方針5：**

お客様の素晴らしい投資体験を実現するため、私たちは各種メディア、セミナー、ウェブサイト及びSNS等を通じて資産運用に係る啓蒙活動を行うとともに、資産運用の一助となるべく、世界の市場動向・経済見通し・金融政策等の積極的な情報提供に努めてまいります。

#### <取り組み>

当社では、お客様により深度のある投資関連情報をご提供し、またお客様ごとの運用ソリューションをご提供できるよう、より革新的なサービス提供体制の構築を進めております。個人投資家に対しましては、自社ホームページ、ソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）やオウンドメディアを活用し、投資関連情報をタイムリーに発信するとともに、人生 100 年時代の資産形成や世の中の全般のトレンド、あるいは当社に関する情報を様々な形でご紹介しております。さらに、機関投資家、年金基金、金融機関のお客様に対しましては、専用のホームページを開設し、当社グループのもつ運用力やソリューション力、あるいは ESG に関するより深い情報を発信しております。

人生 100 年時代といわれる長寿化の時代の中では、これまでとは異なるマインドセットで資産形成について考える必要があるという信念のもと、「100 年時代のお金について考える」というレポートをシリーズで発行し、当社ホームページに連載いたしました。スチュワードシップレポートにつきましては、海外のレポートを翻訳し提供するとともに、日本独自のレポートも発行いたしました。

今後は、商品の特性を踏まえて、販売対象として想定する顧客属性を特定・公表した上で、その顧客属性に応じ、金融取引に関する基本的な知識を得られるための情報提供を積極的に行っていく為の検討を行っています。

#### <KPI>

投資啓蒙に関するレポート：4 本

投資戦略部発の翻訳数 57 本

動画コンテンツ：5 本

SNS を通じた情報提供：386 回

オウンドメディアを通じた情報提供：160 回

ESG レポート（英語）：1 本

当社として初となる個人向けの投資啓蒙に関するセミナーを、ZUU 社と共同にて開催

#### **方針 6：**

研修などを通じて、役職員への当該方針の周知徹底を図ってまいります。

#### <取り組み>

グローバルで掲げている顧客本位にかかるビジョン【At Invesco, we want to be the most client-centric firm in our industry.（運用業界で最も顧客本位を目指す）】や、グローバルで新たに改訂されるコンピテンシー（行動基準）を役職員へ周知することで、顧客本位の業務運営への意識の向上に注力しております。2021 年下半期には、コンピテンシーに関する全社ミーティングを実施する予定です。

#### **方針 7 :**

当該方針に基づく取組状況を定期的に公表するとともに、この方針自体の見直しも行ってまいります。

##### <取り組み>

当社では、お客様本位の業務運営の各方針を所轄する部門の代表を中心としたワーキンググループが進捗状況の確認を行い、経営委員会に報告しております。

ワーキンググループでは、今年 1 月の「顧客本位の業務運営に関する原則」の改訂内容について議論を行い、対応方針の変更や具体的な対応策について協議を行っております。

##### <KPI>

関連する 7 部署 7 名のミーティング： 計 4 回

#### **その他事項 :**

引き続き、新型コロナ感染による緊急事態宣言が発令、解除を繰り返す中で、緊急対策チーム（EMT）が各種指標をモニタリング・分析を行い、感染防止対策、在宅勤務比率のコントロール、ならびに様々な役職員のサポートを実施することで、通常のオフィス勤務時と変わらぬ顧客本位の業務運営が継続できるよう注力いたしました。

##### <KPI>

緊急対策チームによる会議： 計 18 回

以上